



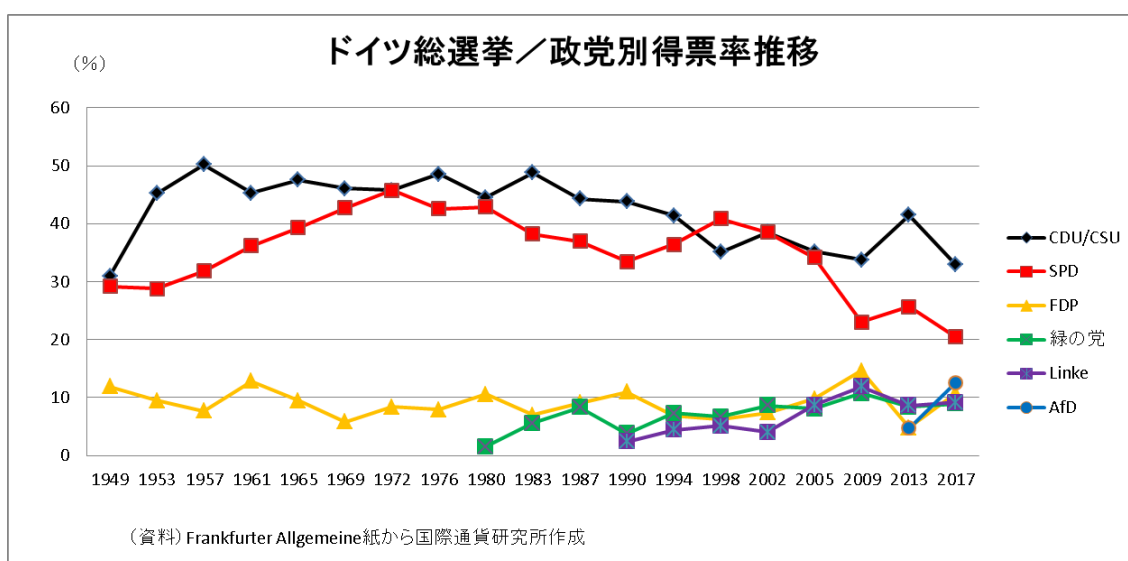
2017年10月6日

ドイツ:総選挙後のゆくえ

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部副部長 麻野文裕

9月24日に行われたドイツ連邦議会（下院）総選挙では、メルケル首相率いるキリスト教民主・社会同盟（CDU/CSU）が事前予想通り第1党となり、メルケル首相の4選が確実となった。しかし、その選挙結果は、ドイツのメディア各社が「ドイツ政治の歴史的転換」と伝えた通り、多くの人々にとって衝撃的なものであった。では、何が「歴史的」だったのか。

- CDU/CSU の得票率 32.9%（前回 2013 年比▲8.6%）は 1949 年以来の低水準。このうち、バイエルン州を基盤とするキリスト教社会同盟（CSU）の同州における得票率は、前回の 49.3% から今回 38.8% へと大幅に下落し戦後最低。
- ドイツ社会民主党（SPD）の得票率は 20.5%（前回比▲5.2%）で戦後最低。CDU/CSU および SPD の二大政党の得票率合計は、かつて 1970～80 年代には 80%～90% 台であったが、今回は 53.4% まで下落し戦後最低。
- 極右政党「ドイツのための選択肢」（AfD）が得票率 12.6% を獲得し第 3 党に躍進。その結果、同党は初めて連邦議会に議席（総数 709 のうち 94 議席）を獲得。連邦議会における会派数が 6（CDU/CSU、SPD、AfD、自由民主党（FDP）、左派党（Linke）、緑の党）となるのは、戦後混乱期を除き初めて。



選挙結果を受け、SPD のシュルツ党首は、CDU/CSU との連立には参加せず、「野党第 1 党として民主主義を守る¹⁾」との意向を早々と表明。その結果、メルケル首相にとっては、いわゆる「ジャマイカ連合」(CDU/CSU、FDP、緑の党による連立政権²⁾) が、議会過半数を得るための事実上の唯一の選択肢となった。「ジャマイカ連合」が成立すれば、これも連邦レベルでは歴史上初めてであり、その成立に至る 3 党間の連立交渉は「過去最も難しい交渉」になると言われている。

これら 3 党 (CSU を 1 党と数えれば 4 党) の立場は、難民・環境・欧州政策など各分野で大きな隔たりがある。例えば、「難民受け入れ数に上限設定」(CSU 主張)、「20 基の石炭火力発電所の即時廃止、ディーゼル車・ガソリン車の販売を 2030 年までに中止」(緑の党主張)、「ユーロ圏強化には財政規律順守を重視、財政移転につながるユーロ圏共通予算の設立には反対」(FDP 主張) など、各党が譲れないとする政策について今後どのように合意形成を図るのか、全く予断を許さない。仮に、「ジャマイカ連合」の交渉が決裂した場合には、CDU/CSU が SPD との「大連立」を模索する可能性や、少数与党による政権樹立あるいは再選挙実施といったことも理論的には無いとは言えず³⁾、現時点での予測は極めて困難である。

それでも、Frankfurter Allgemeine 紙社説 (9 月 26 日付け) によれば、ジャマイカ 3 党は重要な基本理念を共有しており、「安定した政権の樹立は可能」であるという。ベースとなるのは、親欧州を基本姿勢としていること、環境対策に関しパリ協定を受け入れていること、減税を基本方針としていること、デジタル・インフラ拡充を指向していること等であり、重要な争点である難民政策でも各党の歩み寄りも可能であるとしている。また、同紙では、「ジャマイカ連合は、(遅れの目立つ経済のデジタル化や社会インフラ強化、教育制度充実等の) 課題に対し、新たな視点で取り組むチャンスを秘めている」といった産業界からのコメントも紹介している。

総選挙後に行われた世論調査 (ZDF Politbarometer) では、「ジャマイカ連合」を「良い」と評価した人は 59% で、「悪い」と評価した人 22% を大きく上回った。また、CDU/CSU と SPD による「大連立」との比較では、「大連立」が「ジャマイカ連合」より「良い」とした人は 23% に止まり、「悪い」とした人 41% を大きく下回った。「ジャマイカ連合」が唯一の現実的選択肢であることを、多くの国民も既に覚悟しているようだ。

3 党による連立交渉は各政策の細部一つ一つを議論し、何百ページにもおよぶ連立協定書に落とし込む作業となるため、最終決着は来年初にずれ込むとの見方もある⁴⁾。その過程では、多くの妥協が積み重ねられることとなり、例えば、マクロン仏大統領が提

¹⁾ SPD 自身の党勢を立て直す他、AfD が野党第 1 党になることを阻止する意図がある。伝統的に予算委員会の委員長は野党第 1 党が務めるなど、AfD が野党第 1 党になると国政への影響力が強まる懸念がある。

²⁾ 各党シンボルカラーが CDU/CSU : 黒、FDP : 黄、緑の党 : 緑であるためジャマイカの国旗が連想され、「ジャマイカ連合」と呼ばれる。

³⁾ 連邦議会は総選挙後 30 日以内に召集されるため、10 月 24 日までに召集されるが、ドイツ基本法第 63 条は、議会で選出された首相が過半数の支持を得られなかった場合、大統領に当該候補を任命するか、あるいは議会を解散するかを決定する権限を認めている。ただし、過去にはそのどちらのケースも事例はない。

⁴⁾ 10 月 15 日にニーダーザクセン州での州議会選挙が予定されており、連立交渉は同選挙の終了後に本格化する見込み。なお、前回 (2013 年 9 月 22 日付け総選挙後) は、2013 年 12 月 17 日に CDU/CSU、SPD による新政権が誕生している。

案するユーロ圏改革に対するドイツの姿勢は、FDPに配慮した消極的なものとなる可能性がある。しかしながら、3期12年を経て国内での不満も増えてきたメルケル政権にとっては、ジャマイカ3党で議論をつくし、これまでの政策を微調整しつつ次の4年に向かうことは、避けられないプロセスである。極右政党が台頭しつつある現状を、ドイツにとっての「国難」と呼ぶべきか分からないが、背水の陣ともいえる中で、ジャマイカ3党がいかなる政策論争で「国難突破」を図るのか、今後の展開が注目される。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。